

四法公報システム刷新プロジェクトについて

2021年11月26日

四法公報システム刷新プロジェクト



1 プロジェクト概況について

2 総合テストの状況について

1. プロジェクト概況について

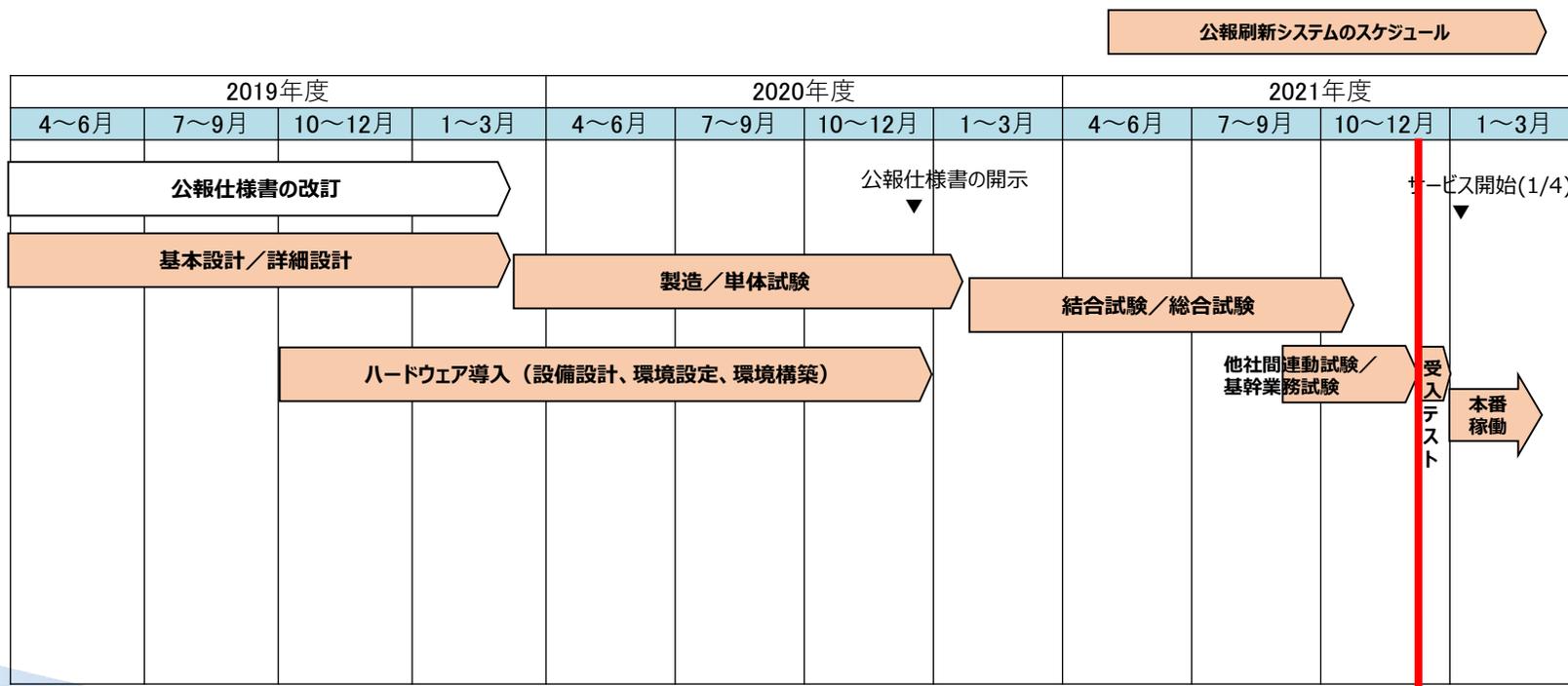
(1) 概況

①公報システム（2022年1月サービス開始予定）

②新公報仕様 2020年12月に外部向け公開済み。2022年1月より、順次適用。

【全体工程（概略）】

2022年1月リリース予定



1. プロジェクト概況について

(2) 対象業務・システムの概要

①業務：特許庁が発行する各種公報のデータ編集、ならびにインターネットを介した発行

②システム：以下の9個のサブシステムにより構成される

(1)公開公報（特許）サブ：公開特許公報、公表特許公報作成用データの抽出、および公報データの編集を行う

(2)登録公報（特許）サブ：特許公報作成用データの抽出、および公報データの編集を行う

(3)登録公報（実用）サブ：登録実用新案公報用データの抽出、および公報データの編集を行う

(4)登録公報（意匠）サブ：意匠公報用データの抽出、および公報データの編集を行う

(5)公開公報（商標）サブ：公開商標公報、公開国際商標公報用データの抽出、および公報データの編集を行う

(6)登録公報（商標）サブ：商標公報、国際商標公報用データの抽出、および公報データの編集を行う

(7)審決公報サブ：審決公報用データの抽出、および公報データの編集を行う

(8)公示号サブ：公示号用データ（審査請求リストや登録目録等）の抽出、および公報データの編集を行う

(9)インターネット発行サブ：各種公報のインターネット上への公開により、公報の発行を行う

1. プロジェクト概況について

(3) 目的

①ユーザの利便性向上

- 現状 権利設定・登録日、またはデータ抽出可能日から公報発行までの期間が長い
(登録公報：設定登録から約2～3週間、商標公開公報：出願から約2～3週間)
- 刷新後 各種登録・公開公報に関して、自動化及び日次発行により、発行までの期間を7～10日へ短縮

②業務の効率化

- 現状 (1)非電子書類、非構造化書類の公報編纂作業が繁雑
(2)自動編纂時のエラー修正作業が繁雑
(3)媒体運用により業務が煩雑
- 刷新後 (1)作成支援機能の構築により、人手作業を効率化
(2)エラー修正機能の利便性を高めることで、人手作業を効率化
(3)他システムに提供する発行データをシステムの機能で送信
ユーザ側のエラー修正機能向上により、SI・ユーザ間の媒体のやりとりの削減

③システム構成の簡素化・運用の効率化

- 現状 (1)XML公報（特許・実用）とSGML公報（意匠・商標・審決）が混在
(2)公報編纂システムと、インターネット発行システムが別システム
- 刷新後 (1)XML形式に統一し、データ仕様についてはWIPO標準ST.96準拠を前提
(2)公報編纂システムと、インターネット発行を行う公報発行サービスを統合

1. プロジェクト概況について

(4) これまでの進捗状況

- ・2015年 5月 プロジェクト発足（業務要件検討開始）
 - ・2019年 4月 基本設計着手 → 2019年11月 基本設計完了
 - ・2019年12月 詳細設計着手 → 2020年 3月 詳細設計完了
 - ・2020年 4月 プログラム設計・製造・単体テスト着手 → 2020年12月 単体テスト完了
 - ・2021年 1月 結合テスト着手 → 2021年 5月 結合テスト完了
 - ・2021年 6月 総合テスト着手 → 2021年10月 総合テスト完了
- ※他社間連動テストの一部、基幹業務テストが残

2. 総合テストの状況について

(2) 総合テスト概要

テスト名称	テスト内容
①業務個別テスト	<ul style="list-style-type: none">・機能の妥当性、作成した公報の正しさ等を確認。・ユーザビリティ及びアクセシビリティ要件を満たすことを確認。
②運用テスト	<ul style="list-style-type: none">・機能の妥当性、作成した公報の正しさ等を確認。・公報種別のバリエーションと業務ルートのバリエーションを確認。
③単性能テスト	<ul style="list-style-type: none">・無負荷状態で処理時間を測定。各種性能要件を満たすにあたり、単性能として問題ないことを確認。
④性能・高負荷テスト	<ul style="list-style-type: none">・本番スケールに換算し、運用スル内に収まることを確認。
⑤信頼性テスト	<ul style="list-style-type: none">・運用時に同時に実行される処理を実行した状態で処理時間を測定。性能要件を満たすことを確認。
⑥連続運転テスト	<ul style="list-style-type: none">・業務に基づいたシステムサイクルが正常に動作するかを確認。
⑦セキュリティテスト	<ul style="list-style-type: none">・セキュリティ診断を実施。
⑧他シス事前連動テスト	<ul style="list-style-type: none">・他シスに対してIF機能要件を満たし、総合テストでの実施内容が他シス含めて開始できることの事前確認のため、接続可能なシステムと業務データを伴う連動テストを実施。・通常系をメインで実施し、異常系はプロトコルバールの一本のみ実施。
⑨他社間連動テスト	<ul style="list-style-type: none">・他シスとの連携処理が正常に機能するかIFごとに確認。・異常系も含めて網羅的にテスト実施。
⑩基幹業務テスト	<ul style="list-style-type: none">・主要業務処理（受付から公報発行まで）が正常に実施できるか確認。

ありがとうございました。
ご意見、ご助言等いただけると幸甚です。

